

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 事業計画（実行団体）

事業名（主）	社会的養護施設の人材確保支援
事業名（副） ※任意	コロナにより、離職・退職が相次ぎ、採用活動も大幅に鈍化している社会的養護施設の「新規職員の採用」をサポートすることで、入所児童への十分な支援体制を作る。

実行団体名	特定非営利活動法人 チャイボラ
資金分配団体名	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

優先的に解決すべき社会の諸課題

※該当する領域に☒（チェック）を入れてください（複数可） ※左側でチェックした領域に対応する分野に☒を入れてください（複数可）

領域		分野	
☒	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☒	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☒	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☒	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☐	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☐	④働くことが困難な人への支援
		☐	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☒	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☒	⑥地域の働く場づくりの支援
		☒	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他団体として解決したい と考えている社会の課題	☐	(50 字程度)
--------------------------------------	---	----------

実施時期	2020 年 10 月 ～ 2021 年 9 月
事業対象地域	☐ 全国 ☒ 特定地域（東京都・神奈川県・埼玉県）
事業対象者 （事業で直接支援する対象者と、その他最終受益者を含む）	事業で直接支援する対象者：東京都・神奈川県・埼玉県の社会的養護施設・施設職員 最終受益者：児童養護施設に入所する児童
事業対象者人数（想定）	東京・神奈川・埼玉県の社会的養護施設職員の数：約 6,000 人 東京・神奈川・埼玉県の入所児童：約 6,000 人

I.団体の社会的役割

(1) 申請団体の目的 (200 字程度)

社会的養護施設の中でも半数以上の割合を占める児童養護施設には、約 2～18 歳の児童が約 2.5 万人生活している。その入所理由の大半が虐待である。全国では 20～25 名の子どもを 1 名の職員が見る体制の施設もあり、比較的職員が確保できている施設ですら、日中は 8 名、夜間は 16 名の子を見る施設も少なくない。チャイボウは、社会的養護の現状を正しく発信することで施設に関心のある人と施設を繋ぎ、職員を増やし長く働ける環境を作ることで、「子どもたち一人ひとりが大切に育てられる世の中」を目指し活動している。

(2) 申請団体の概要・事業内容等 (200 字程度)

1. 社会的養護総合情報サイト【チャボナビ】の運営：情報発信が弱い施設の情報を掲載し、施設と求職者の接点を拡大。
2. 施設見学会の企画・運営：社会的養護に関心のある方向けに、施設に合った形式の見学会を企画し運営。
3. 大学・短大・専門学校へ出張授業：施設で働ける資格を取得できる学校に出向き、社会的養護の認知を高め、施設で働く魅力を発信。
4. 社会的養護の情報発信：学習会の開催や SNS による情報発信等、社会的養護に関する情報発信を行い関心層を増やす。
5. 「社会的養護職員のための相談窓口」の設立と運営：コロナにより疲弊する職員の離職を防ぐため現在設立中。

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 (800 字程度)

【現状】

最新の速報値で年間約 16 万件虐待通告が寄せられ、その内保護件数は 4 万 5 千人。全国には約 1300 の社会的養護施設があり、その中でも児童養護施設（児童入所理由の大半が虐待。約 2～18 歳の児童が生活している。約 3 割がなんらかの障害がある）には約 3 万人の子どもたちが生活している。

【課題】

現在、多くの社会的養護施設が深刻な『職員不足』と『離職過多』という課題を抱えている。国の定める人員配置率は職員 1 名に対し子ども 3～4 名まで引き上げられているが、比較的職員が確保できている都内の児童養護施設ですら、職員 1 名に対し子ども 8 名、夜間は 16 名の児童を見る施設も少なくない。（代表の大山が現在勤務する施設も同様の状態）全国では 20 名～25 名の児童を 1 人の職員が見ている施設もある。

深刻な職員不足は労働時間の増加と子どもとの対話時間の低下を招き、トラブルを誘発、心身の疲弊が伴う過酷な環境下は職員の離職率を恒常的に押し上げている。

【コロナによる影響】

コロナにより入所児童が学校に通えず 1 日中施設にすることで暴言・暴力等のトラブルが多発。自傷行為をする児童もでてきてしまった。職員は日々対応に追われ疲弊しきっている。

日中の職員会議や引継ぎの時間もなくなり、新人育成計画も崩壊、若手人材を中心に離職や求職が相次いでいる。

本来、国や都道府県が設置すべき職員向けの相談窓口は存在せず、職員は心身共に限界を迎えつつある。一方で、来年度の新卒採用に向けた採用活動も大きく鈍化しており、新規採用が絶望的な状況である。このまま離職率が高まり採用活動が滞れば次年度以降の入所児童数の受入れを減らす可能性さえ出てくる。そこで、READYFOR 新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金 900 万円 を獲得し、社会的養護職員専門の相談窓口を設立中。この施策により、離職を食い止める。本助成金では「人材確保」のための活動費用を賄いたい。

Ⅲ.事業内容

(1) 事業の概要 (300 字程度)

コロナにより、離職・退職が相次ぎ、採用活動も大幅に鈍化している社会的養護施設の「新規職員の採用」をサポートすることで、入所児童への十分な支援体制を作る。

既に運営中のチャボナビ、見学会の企画運営、出張授業、社会的養護に関する情報の発信、相談窓口の各施策を加速させるため、新たな広報戦略を実行し求職者や施設に必要な情報が届けられるようにする。

また上述の活動を加速させるため、現在のボランティア・プロボノスタッフが事業運営に集中できるよう、弁護士・社労士・税理士等の専門家から支援を調達し、本団体そのものの実行力・ガバナンス強化も行う。

【追加施策】

採択の条件として以下の内容を追加する

- ①国・自治体に対し政策提言を行う
- ②チャボナビ掲載基準を作成する

(2) 事業実施後 (1 年後) 以降に目標とする状態 (200 字程度)

全国にある社会的養護施設、約 1300 にチャボナビやチャイボラの活動が認知され、1 年後は、一都三県では 7 割、全国的には 4 割の施設が掲載され、掲載されている施設の採用希望人数の最低でも 5 割はチャボナビを通して採用が決まる状態を作る。その結果、全国で約 37,000 人いる入所児童が安心して生活できる環境を提供することを目標とする。

(3) 今回の事業実施で達成される状態 (アウトプット)	1. 新規広報戦略によるチャイボラ・チャボナビの認知拡大 2. 新規採用職員の拡大
実施・到達状況の目安とする指標	1. チャボナビ施設掲載数・チャボナビのコンバージョン数 (施設見学会申込数 + その他施設へのコンタクト数) 2. チャボナビ経由での新規採用職員数
把握方法	1. チャボナビが持つ、サイト訪問者レポートからの測定情報 2. チャボナビ経由での求職者と施設とのマッチング数
目標値/目標状態	1. CV 数 100%増 (※2020 年 9 月時点と比較して) 2. マッチング数 50%増 (※2020 年 9 月時点と比較して)

目標達成時期	FY20 年度 求職者向け：2021 年 3 月 FY21 年度 求職者向け：2021 年 9 月
--------	--

(4) 活動	時期
コロナ下における広報戦略の策定 施設見学会・出張授業のオンライン化のための計画	2020 年 10 月～11 月
チャイボラ 運営体制・ガバナンス強化施策の策定 体制・役割分担 および 専門家への依頼事項の明確化	2020 年 10 月～11 月
サイクル 1：既存職員及び FY20 求職者向け <ul style="list-style-type: none"> ● 業務委託先との連携 「チャイボラ・チャボナビ」PR 活動支援 ● 動画コンテンツ・SNS 掲載コンテンツ作成 ● 施設見学会（オンライン）の実施 ● 出張授業（オンライン）の実施 	2020 年 11 月～2021 年 3 月
チャイボラ 運営体制・ガバナンス強化施策の構築 内部規定の策定 及び ドキュメント作成	2020 年 11 月～2021 年 3 月
サイクル 2：FY21 求職者向け <ul style="list-style-type: none"> ● 業務委託先との連携 「チャイボラ・チャボナビ」PR 活動支援 （施設紹介動画：6 施設） ● 動画コンテンツ・SNS 掲載コンテンツ作成 ● 施設見学会（オンライン）の実施 ● 出張授業（オンライン）の実施 	2021 年 4 月～9 月
チャイボラ 運営体制・ガバナンス強化施策の実行	2021 年 4 月～2021 年 9 月
掲載基準作成	2021 年 1 月～2021 年 9 月
国・自治体への政策提言制作	2021 年 1 月～2021 年 9 月

(5) 事業の今後の展開（今後、団体が目指す事業展開）（200 字程度）
<p>コロナ下であっても、新たな広報戦略とオンライン化戦略により、本団体が掲げる 5 つの事業を成長させ、全国にある社会的養護施設約 1300、職員約 30,000 人への直接的・継続的な支援が行える体制を構築する。その結果、全国で約 37,000 人いる入所児童が安心して生活・勉強でき、自己肯定感をはぐくむことが出来る社会の実現を目指す。</p>

(6) 日々の事業実施や組織運営において子どもの安心・安全をどのように確保していますか？
 (子どものセーフガーディングの取り組みなど) (200 字程度)

虐待を受けてきた児童の多くは人が生きていく上の根底となる「自己肯定感」がとても低い。大切に育てられる経験がないことで自己肯定や他者への思いやり持てず、挑戦する気持ちが薄くなってしまふ。

チャイボラでは、子どもたちの自己肯定感を如何に回復させるか？を常に起点とし、その支援を直接的に実施する施設職員の充足を図ることで、長期的・継続的な子どもたちへの十分な支援体制を構築できるよう運営を行っている。

(7) 子どもへの支援活動を行う際に、団体として、留意・心がけているポイント。(活動における子どもの役割など)
 (200 字程度)

心がけていることは大きく2つある。

一つ目は、「虐待をする親 = 悪魔ではない」ということ。親も苦しんでいるし、子どもを傷つけてやろうと思ひ虐待をしているケースはごくわずか。親を否定するのではなく、どうしたら親も救えるのか？を考え発信している。

二つ目は、施設職員も一人の人間でありそれぞれの人生があるということ。子どものために自分を犠牲にする必要はない。職員の well being が子どもたちにとって重要であるということを発信している。

IV. 事業実施体制

<p>(1) メンバー構成 と各メンバーの役割</p>	<p>計 19 名 <団体代表> 大山 (代表理事) : 全体統括 中塚 (理事) : 経営管理、チャボナビ事業担当 鴫田 (理事) : チャボナビ運営統括、施設見学会・出張授業担当 高瀬 (監事、TN クロス代表取締役社長) 福島 (顧問、元ベネッセホールディングス代表取締役社長)</p> <p><各役割および担当者> 経理・総務統括 : 野尻 総務サポート : 土井 IT 管理 : 斎藤 予算管理 : 森田 チャボナビ運営・SNS 配信 : 渡辺、朝川、森園、古谷、田中、宮越、小山、平原 社会的養護職員相談窓口 : 渡辺 寄付・助成金獲得 : 上土井 広報 : 胡子</p>
<p>(2) 他団体との連携体制</p>	<p>◆東京都社会福祉協議会・児童部会・人材対策委員会と連携し、都内の児童養護施設、自立援助ホームの人材確保・定着に向けた施策を企画・実施している。</p> <p>◆全国虐待防止ネットワークが実施する鎮魂集会のサポートメンバーであり、日本の児童虐待の実情を発信している。</p>

(3) 想定されるリスクと管理体制	<p>今後、全国的な認知を拡大していく際に、社会的養護施設は全国での集会等があるので、一気に認知を高めていくことが可能と予想できるが、求職者側への認知を高めていくことが困難と思われる。</p> <p>現在は都内にメンバーが集中しているが、今後は全国に拠点を作り、それぞれの地域に根付いて活動を展開していく必要が出てくると考える。</p> <p>そこで、今までは知り合いつなかりでメンバーを確保してきたが、SNS 等を活用し、全国にメンバーが配置できるよう広報し体制を整えていく。</p>
-------------------	---

V.関連する主な実績

(1) 休眠預金以外の助成・補助金活用の有無		
コロナウイルス感染症に係る事業		
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している(予定も含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	<p>「有り」の場合その詳細</p> <p>2020/07 READYFOR 新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金 900 万円 新規事業：社会的養護施設（児童養護施設等）の相談機関を設立「社会的養護職員相談窓口」</p>
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	<p>※有の場合、選定の対象外となります。 （公募要領：助成方針参照）</p>

(2) 申請事業に関連する調査研究、連携の実績（200 字程度）
<p>これまでに、500 名以上の求職者（主に学生）へのアンケートやインタビュー調査を行ってきた。それにより、求職者が「何に困り、どんな情報を必要とし、どんな体験ができれば就職を決断できるのか」という情報をチャイボラはもっている。これも、保育士の専門学生が立ち上げたからこそできた実績だ。また、現役・元施設職員がメンバーに複数存在することで、施設の現状理解が徹底されており、施設と求職者両面からのサポートが可能となっている。</p>